

大樹航空宇宙ボランティアサークル

活動レポート Vol.1 (2025.9)



和歌山県で研修してきました！



8月30日(土)から9月1日(月)、和歌山県に赴き、県立串本古座高校との交流や宇宙シンポジウムに参加してきましたので、その様子を紹介します。

1日目は、東京大学 中須賀 真一 先生から、高校連携の意義、超小型人工衛星について講義をいただいた後、本校、串本古座高校の取組を互いに紹介し、さらに持続可能なまちづくりについてグループ討議を行いました。夜はバーベキューをし、参加者一同、親睦を深めました。

2日目午前は、スペースポート紀伊のロケット発射場、宇宙ふれあいホールSora Miru、名勝橋杭岩の視察を行い、午後は宇宙シンポジウムin串本に参加しました。宇宙シンポジウムでは、サプライズとして古川 聡 宇宙飛行士から本校宛にサイン色紙をいただきました！ 夜は串本古座高生と一緒に、天体観測を行いました。

最終日は、串本古座高校で「宇宙へ行こう!」をテーマに藤島 徹 先生の授業体験を受け、とても充実した3日間でした。



グループ討議



ロケット発射場



シンポジウム



授業体験



参加メンバーの声



私は、今回の活動を通して、成長を実感し、挑戦してみたいことが増えました。宇宙シンポジウムにて今まで私の課題であった、質問ができないことの解決に一步進むことができ、串本古座高校のみなさんとの交流で、缶サツ作成やイベント事への参加に挑戦したいと強く思うようになりました。(1年)

今回の和歌山研修で私は様々な刺激を受けました。特に私が刺激を受けたのが宇宙シンポジウムで自ら司会、運営、さらに発表までしていた串本古座高校の生徒の皆さんの姿です。その姿を見て、今度の宇宙サミットでは彼らに負けない姿を見せたいと強く思いました。(1年)

今回はこのような機会に参加させていただきありがとうございました。私は宇宙について知らないことが多く、また、宇宙関係の仕事は大変だけど、やりがいのある仕事だと感じるなど、学んだことも多かったので、それらを元にこれから自分で調べて次に活動にいかしていきたいです。(1年)

大樹では、射場やロケットについての話しか聞く機会がなかったですが、今回は衛星を作る方、実際に宇宙へ行く宇宙飛行士の方からお話が聞けてとても貴重な体験ができました。様々な視点から宇宙産業について考えるきっかけになりました。今後の活動にも活かしていきたいです！(2年)

和歌山研修を通して私は現在行われている宇宙開発のことや他校の宇宙への取り組みを知ることができ、それにより宇宙の知識や興味が増すと共に自分の強みや未熟な点を感じ考えることができました。これからは強みを活かしながら色々なことに挑戦してどんどん成長していきたいです。(2年)

宇宙に衛星を届けるための技術の発展、衛星を使って津波を検知するなど、今後の日本に必要な要素を多く聞く事ができました。これからの活動ではただ何かをするのではなく、更に踏み込んでそこから得られるデータなども考えていく必要があると感じました。(2年)

今回の和歌山研修では宇宙はどんな身近になってきていると感じました。ロケットの民間利用の拡大や宇宙旅行の話などがあったからです。今回のシンポジウムでアクセルスペースの中村さんが話していた宇宙ふりかけ理論がとても印象に残っています。今回は串本古座高校の皆さんやシンポジウムに登壇されていた方達からたくさんの事を学んだので、北海道宇宙サミットでアウトバットをできるように準備を進めていきたいです。(2年)

私は今回、自分が将来、大樹町で町おこしをする際に、宇宙をより推す活動もしていきたいと思いました。なぜなら私はただの好奇心からこのサークルに入りましたが、研修で宇宙産業と課題解決能力に深く繋がりが分かることが分かり、宇宙教育のポテンシャルは地元愛を育むことや、生きる力を身に付けることにおいて高いと感じたからです。今後は、宇宙に関しての知識をより深め、宇宙振興活動に取り組んでいきたいです。(3年)

和歌山県庁、串本古座高校
東京大学中須賀先生をはじめ
ご支援いただいた大樹町の皆様
ありがとうございました！

